

近江商人の知恵と理念を現代に生かす情報紙

さんぽう

## 三方よし

第26号

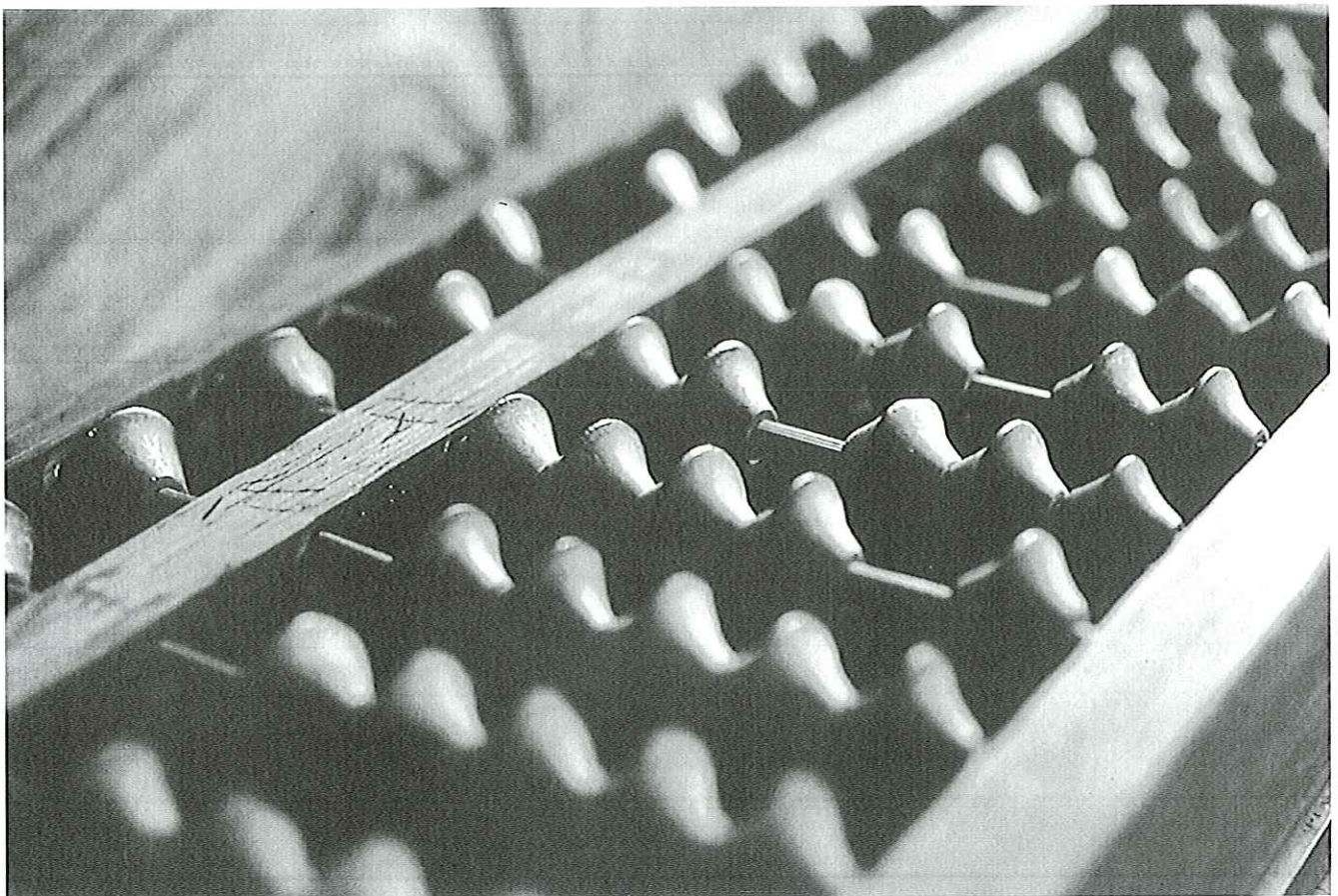
2005/1

## CONTENTS

特集 利他の心とビジネス 2

秩父矢尾百貨店社長 矢尾直秀氏が語る近江商人商法の神髄 5

地域貢献企業として日本フィランソロピー協会が表彰 7



## 商いの道具考 その① そろばん

「近江から多くの優れた商人が誕生した背景には、渡来人の影響が濃厚で数字を扱う能力が非常にすぐれていた」と司馬遼太郎は『街道をゆく』で記述しています。そして、豊臣秀吉の五奉行は近江人で占められたこと、作家外村繁は常に各種の団体会計を引き受けていたことがその現れと推察しています。いまでは加減乗除などの計算は全て電卓を使用しますが、つい近年までは、算盤は数の計算には不可欠のものとして重要な道具でした。写真の算盤は5つ玉とよばれたもので昭和10年代以前まで使われていました。その後、4つ玉が主流となりましたが、商家の店先で使用された算盤には、底には板が張られ引き出すとメモ代わりに使えたり、また算盤に置いた金額を他の人に見られないように、斜めに立てて客にだけ見えるという使い方や座売り商いの知恵がありました。

この算盤は、明から渡来したもので、長崎奉行長谷川藤広に従って当時長崎にいた片岡庄兵衛が、慶長17年(1612)に日本で初めて算盤を制作し、幕府ご用達の算盤師となったのでした。やがて大津で株仲間ができ、片岡家をはじめ17軒の算盤業者がありました。三井寺観音堂近くには算盤発祥の地の石碑が残り当時を語っています。

商いの必需品の算盤制作の発祥の地が滋賀県であるのも、なにやら多くの商人輩出と深い因縁が感じられます。



## 特集

## 第13回三方よし理念講座より

■武 覚超 氏

## 利他の心とビジネス

日本仏教発祥の地で学ぶ三方よし



武 覚超 (たけかくちょう) 氏

昭和23年生まれ、大谷大学大学院博士課程修了。叡山学院教授、比叡山幼稚園園長。主な著書として『天台教学の研究』『比叡山三塔諸堂沿革史』『中国天台史』などのご専門のほか一般教養書『近江歴史回廊ガイドブック 近江山辺の道』(共著)もある。

本年の三方よし理念講座では、近江商人の経営理念「三方よし」の底流にある宗教心・信仰の心についての講座を企画しました。まずは日本仏教の母山である比叡山からと、さる11月14日(日)大津市坂本の生源寺で、伝教大師最澄の著名な言葉の本質を学ぶこととしました。本紙ではその一部をご紹介します。

仏教がめざすものに  
通じる「三方よし」

十月に復刊された情報紙「三方よし」を読ませていただきましたが、この三方よしの理念と伝教大師のお考えは、求めるところは実は同じなのだと思感的に思いました。経済的・商売的なものと仏教の修行信仰は、まったく分野が違うように思いますが、最終的に求めようとするところは、実は同じではないかという感じがしました。

仏教は自分の幸せや成功という最高の境地を求め、自分自身を導くという一面があります。これが「売り手よし」ということであるとすれば、仏教でいう利他は、みんなの幸せ、相手の幸せを願う「思いやり」です。仏の心は慈悲の心と言います

が、相手に対する優しい思いやりの心が「買い手よし」です。「売り手よし」「買い手よし」でみんながよくなり「世間よし」となる。仏教では浄仏国土、清らかな世界になるということですが。仏教の目指すものと、これは不思議に一致するなという感じをさせていただきました。

## 近江の誇り比叡山

最澄さんは今から千二百年前に比叡山を開かれ、日本仏教の母山として、非常に多くの日本仏教の祖師を輩出しました。座禅を唱えられた道元禅師、榮西禅師、阿弥陀仏の念仏信仰を唱えられた法然上人・親鸞聖人、西教寺を開かれた真盛上人、法華経の題目を唱えられた日蓮聖人も、みんな比叡山で学ばれた方です。千二百年という歴史を通して、これだけの人材を育てたのは、実は比叡山だけで、近江の誇りでもあると思います。

ここ生源寺は、伝教大師が誕生せられた産湯の井戸をはじめ、胞衣塚や産湯のときにお湯を炊いた石櫃などいろいろな遺跡がたくさんあります。

全てを受け入れた  
伝教大師

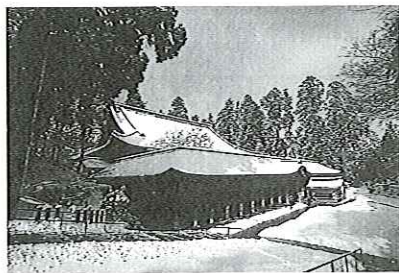
最澄さんは、中国から帰化された三津首百枝公と、名門の出身の藤原藤子という両親が、八王子山のご神体に祈願されてお生まれになり、十五歳で近江の国分寺で得度されました。当時は得度してお坊さんになることは大変なことで、国家の指導者、エリートとして認められるということです。その試験も非常に難しく、選ばれて近江の国分寺の精神的な指導者として将来を嘱望されたのです。

その後、二十歳になって東大寺で具足戒を受けましたが、当時の奈良の仏教界のあり方には大きな矛盾を感じられました。奈良の仏教は、都の仏教ですから、大層きらびやかで華やかに見えたのです。ところが本質的には自分の名誉とか利益ばかり求めて、とくに政治との結びつきもあり、このような汚れた人間関係の中で、いろいろ勉強していくことは非常に難しいと判断され、奈良の仏教を捨てて、一人で比叡山に入られたのです。





伝教大師誕生の地「生源寺」。井戸は伝教大師誕生時、産湯に使われたといわれる。毎年8月18日には盛大な誕生会が行われる。ご本尊は慈覚大師の作と伝える十一面観世音菩薩。



根本中堂

伝教大師 發願文  
 悠々たる三昧は絶つて苦行にて空しくなるべし。...  
 生くる時善を作すべし死する日善業を成らん。得難くして移り易きはそれ人身なり。...  
 是を以て法皇手尼に大海の針抄高線...  
 一丈の深半寸の淵を惜しんで一丈の空を過ぐるを教く。因はくして果を得るは...  
 この處あるをく善くして苦を免る...  
 伏して願わくば...  
 安んずるを祈り...  
 妙法蓮華経...  
 せん！願わくば...  
 引算せしめ...  
 仏國を浄め...  
 仏事を作さん。

伝教大師「發願文」

### 環境を視野においた 伝教大師

「自ずから住めば持戒のこの山はまことなるかな依身より依処」

この歌は、伝教大師が詠まれた歌として知られ、比叡山という大自然の中に居るだけで、心は清らかなになり、正しい生活ができるという意味です。

「依身」は自分自身のことです。から、自分がいくらしつかりしていると思つていても、置かれた環境に左右されてしまう。だから場所を選ばねばならない。ということ、比叡山に入られるな人間のつき合いも必要ですが、立派な人材、ほんとうの指導者を育てるためには、徹底した学問修行がなければならぬと伝教大師はお考えになったのです。そしてこの時のお気持ち「発願文」として著しておられます。(資料一)

### 国を守る唯一の寺 「延暦寺」

比叡山に入られてから三年後に、現在根本中堂のある場所に一乗止観院という小さな寺をお

建てになり薬師如来を本尊とされました。当時、薬師さまは心の病を治してくれるというので薬師如来信仰が盛んでした。そして、仏の教えがいつまでも輝き続けるようにという願いを込めて灯された火が、千二百年を経て現在も輝いています。これが不滅の法灯です。

一乗止観院は比叡山仏教の始まりですが、根本中堂完成の六年後に桓武天皇が都を京に移され、最澄さんに大変期待を寄せた天皇は、比叡山のお寺は国を守る寺として認めます。全国には多くの寺がありますが、国を守る寺は唯一ここだけです。最澄さんの生前は「比叡山寺」と称していましたが、桓武天皇の後の嵯峨天皇が比叡山寺に元号の「延暦」を与えられたので、国を守る寺だということ、勅命で延暦寺になったのです。

最澄さんは国が栄え、人々が平安であるためには真実の仏教を伝える必要があると、命がけで中国に渡り、天台大師の仏教や真言密教の教えを日本に伝えられました。そして国を治めるためには人材育成が重要であるということ、人々を導く立派な心の指導者・精神の指導者を育てたいというお気持ちになりました。

### 指導者を育てる比叡山

比叡山は民衆を教化する寺ではなく、仏教の指導者を育てることを念頭に置いて厳しい修行が行われてきました。一切の関係を断ち切って学問に専念する学山であり修行の山が比叡山です。その教育制度が「山家学生式」といわれる制度です。

この制度は十八カ条からなり、詳しい制度の内容や専攻などが書かれています。その序文に非常に有名な言葉がありますので、その要点をご紹介します。

「国宝とは何物ぞ宝とは道心なり。道心ある人を名づけて国宝となす」からはじまりますが、この意味は、御仏の心こそ宝であり、道心ある人を国宝ということ、心を持つた者、つまり御仏を目指して修行するものはみな菩薩とされますが、この道心を比叡山では大切にします。御仏の心を持って、いかにそれを自分のものにするかが大事な精神なのです。

### 一隅を照らす

「故に古人の言く、径寸十枚これ国宝にあらず一隅を照らすこ





最澄幼年像

れすなわち国宝なり」

この伝教大師の「一隅を照らす」という言葉は非常に有名な言葉ですが、一隅を照らすと言っても、それは道心が根本にあります。その上で一隅を照らすことができるのです。

伝教大師のお言葉

山家学生式も序文  
 國聖は何物や空に道心なり、道心ある  
 の人をあつて國聖とす。教は人の言ひ  
 經り十枚、これ國聖にあらず。一隅を照らす  
 こと、此のやめち國聖なりと。古語に能く  
 能く言ひ行ふこと能くするは國の師なり。  
 能く行ひ言ひこと能くするは國の師なり。  
 能く行ひ能く言ひは國の師なりと。一  
 乃ち道心ある佛子、西には菩薩と稱し、  
 東には君子と号す。惡事を己に向し、好ま  
 るを己にせし己とて、他を利するは佛子の  
 格なり。

伝教大師のお言葉

この言葉は、中国の故事から引用しています。春秋戦国時代の中国では、いろんな国が群雄割拠しており、小さな魏の国の王さんが、斉という大きな国の王さんに「私の国には直径一寸の宝が十枚ありますが、あなたの国はもつと大きいから、もつとたくさん宝がどれだけあるでしょうか」と聞いたところ、「いや、私の国はそんなものが宝もありません。私の国は千里という広い国ですが、千里を守つてくれる者がいます。戦争に行つて居る者もいるかもしれませんが、国のそれぞれの持ち場を守る臣下がいるから、この千里の国が栄えているのですよ」と答えました。この話を引用して、千里を照らすうちの一隅を守るということを、「一隅を照らす」とい

というのです。

それは現代的には、「ポストにベスト」ということになろうかと思えます。自分のよさを生かして、期待された役割を果たすということですね。そういうことを伝教大師は、一隅を照らすと言ったのです。

当然のことですが、それはあくまでも道心、仏の心にならうとするのが根本にあります。その上で一隅を照らすのです。

誰もが国の宝

「古哲また云く、能く言いて行

うこと能わざるは国の師なり、

能く行いて言うこと能はざるは

国の用なり、能く行い能く言う

は国の宝なり」と続きますが、

これも紀元三世紀初めごろの後

漢の時代の物語を引いていま

す。学識がある人は、実行力は

なくても人々に対して、こうい

う素晴らしい教えますよ、と言

つて、導くことができます。一

方で「能く行いて」ということ

は、実行力はあるけれども、自

分たちは勉強が嫌いだから何も

わかりません。というのですが、

人を導くことができなくとも実

行する、それも立派な先生であり、国の用なのです。だから菩薩というのは、両方

ともできなくてもいいということですね。どちらかをそなえていれば、すなわち宝となれます。

比叡山の回峰行では何も教えませんが、ただひたすら歩くのです。ただ礼拝のみと言つて、相應和尚がはじめたのですが、比叡山七里半を百日間、千日間歩き続け、一日も休まずひたすら礼拝して歩く厳しい修行をします。その姿を見て、「私もがんばらないといけない」という気持ちを起こさせられます。それは実行力に優れているということなのです。

一般社会の中でも、靴を揃える、掃き掃除をする、何も言わずに一所懸命やつている姿を見れば、私もちよつと手伝おう、やらなれないいけないという気持ちを起こさせられるわけです。それは実行力があるのですが、人々を学識によつて指導していることではありません。人々を教え導くことはできないけれども、実行力があれば立派に、国の用となることができます。理想は、言うことも行うことも両方できれば、ほんとうの国の宝ですが、べつに国の用、国の師であつても、それは立派な菩薩なのです。道心に燃えた菩薩だということを、伝教大師は言

己を忘れて人に尽くす

「乃ち道心あるの佛子 惡事を己に向え、好事を他に与え己を忘れて他を利するは慈悲の極なり」。

菩薩のことを佛子と言ひ換えることもできます。だから道心ある人はみんな仏の子であるということなのです。嫌なことは自分がやりましょう。いいことは分かち合ひましょう。それが慈悲の思いやりの心、即ち道心ということですね。真の思いやりとは、自分のことは忘れて人に尽くすことが無上の喜びと感ずる、そのような心なのです。自分を忘れ、他を利する。それが最高の善であり、慈悲の究極の境地なのです。

このように「山家学生式」では、道心を育てることの大切さを説き、人材を育てる根本は道心にあるといっています。これは先ほどの三方よしということとよく一致するものです。実は伝教大師は平安時代に出られて、日本仏教に大きな影響を与えて、歴史的にも比叡山からいろいろな文化が発信されていきました。近江商人もそういう伝教大師の基盤、土壌のなかで生まれ、「三方よし」の考え方として伝教大師の精神が受け入れられてきたのだと思います。



# 永年継続経営の基本 「陰徳を積むこと」

—「三方よし」から広がる健康なまちづくりシンポジウムより—

さる11月22日、滋賀県東近江地域振興局健康管理部主催の「健康づくりシンポジウム」が五個荘町生涯学習センターで開催され、当日は各地でご活躍中の近江商人の方々にご参集いただき、みなさまの近江商人観をお伺いすると同時に、健康づくりに関するご提言をいただきました。当日のご発言の中から、とくに秩父事件の背景などをお話いただいた矢尾直秀氏の経営理念に関するお話を収録しました。



矢尾直秀（やおなおひで）氏

昭和10年生まれ。寛延2年（1749）創業の秩父矢尾百貨店社長、秩父商工会議所会頭、秩父法人会会長などの要職を務め、地域経済界の重鎮。陰徳善事の例として秩父事件と矢尾家が頻繁に引用され、CSRを先取りしてきた実践が衆目を集める。

## 秩父矢尾百貨店社長 矢尾直秀氏が語る 近江商人商法の神髄

### 脈々とつづく近江商人の流れ

私は日野町の出身で、創業以来本年で二百五十六年になりました。最初は造り酒屋でしたが、その後、よろずものを売るようになり、現在は百貨店法に基づく百貨店とギフト関係の冠婚葬祭事業を営んでいます。

役員は全部、滋賀県出身で、五十歳以上の社員の、ほとんどが滋賀県、特に日野を中心とした方々です。ただ残念ながら、現在は、地元秩父の社員が多くなりました。

昭和四十年の初め、日野高校での求人活動の中で、「江戸を通り越して、秩父まで行く生徒はもういませんよ」というお言葉があり、それ以来、滋賀県からの採用は困難になりました。とはいえ、今も多くの先輩方がおられ、近江商人の流れは脈々と続いているのです。

### 言い伝えられる「積善」と「始末儉約」

我が社の場合、家訓らしい家訓は残ってはいませんが、先祖

が書き残し、常に反復していることが二つあります。

一つは、「陰徳を積みて子孫の長久を願うべき」ということです。現代的には子孫ではなく会社の長久を願うべきでしょう。

もう一つは、「ものの妙和を知り、すべてのものを捨てたら、すべし始末儉約をすべきこと」と。ものを大事にして始末儉約せよというもので、この言葉は、何回も何回も繰り返して言われてきました。商売をこうやってうまくやれとか、こうやれば儲かるという話は、家訓の中にはありませんが、陰徳を積めとか始末儉約ということは、昔の人が商売をやってきて、心の底から感じたことであつたと思います。

### 「積善積徳」と秩父事件

秩父事件は、明治十七年に、秩父の農民が決起した事件で、今年でちょうど百二十年になります。この事件を扱った映画「草の乱」が最近完成しました。秩父事件で焼き討ちをうけなかつた矢尾のことは「積善積徳」「陰徳を積め」ということの例

として、よく引用されています。この事件では、秩父郡士の質屋さんや豪商の店のほとんどが焼き討ちにあつたのですが、私どもは、天保飢饉の時に少売、あるいは薄利多売でお米をみなさんに販売したということが明治の時代にまでも伝わり、このことが焼き討ちにあわなかつた理由だそうです。

矢尾では、天保飢饉の時だけではなく、創業以来、普段の商売が、いわゆる私利を貪るのではなく、秩父地域がよくなるようにするのだという考え方に基づいていました。とりわけ天保飢饉の時に顕著に表れて、少売、あるいはほとんど薄利の商いをしていた矢尾商店について、秩父の郡士の方々がよく存じておられて、我々の敵ではないと判断し、暴動のときに我が社は免れ、決起された方々が、「炊き出しをしてくれ、店は従来どおり開いてくれ」と言われたのでした。

### 矢尾百貨店の経営理念

●商売そのものがCSR、信用  
失墜は一瞬のこと

こうした精神を引き継ぎ、現在、我が社で考えている経営理念の一つは、時代の変化に対応して、創意を持ってお客さま第一主義を実践しようということです。



す。時代の変化に対応して商売をしなければ長続きはしないと  
思います。

当然ながらお客さま第一主義という  
ことも時代の対応のなかに入ると  
思います。

二つ目は、信用を重んじ和親と  
礼儀を持つて日々お客さまへの  
奉仕に心がけるということです。  
信用は何よりも大事と心がけて  
おります。だから長い歴史があ  
るだけに、先輩方が築きあげた、  
お客さんの信用を崩してはいけ  
ないと考えるのです。

最近では雪印や三菱自動車な  
ど、いろいろな会社の経済事件  
がありますが、信用失墜なんて  
一瞬です。信用をいかに維持す  
るかが大きな問題です。

今、CSR、企業の社会的責  
任をさかんに言いますが、私に  
言わせると、いまさらCSRが  
どうだということではなく、商  
売そのものに対して、企業の責  
任を常に考えていなくては、商  
売が成り立たないという考え方  
だと思えます。

●和親と礼儀、社員の幸福、  
会社の繁栄は当然

和親と礼儀というのは、親し  
みと礼儀ということです。商売  
ではやはり、ある程度の地元の  
人たちの親しみと同時に、仲間

意識ではなくて、お客さまとし  
ての礼儀を重んじる、というよ  
うな考え方があります。現在は、  
安心だとか安全だとかが非常に  
重要視されますから、矢尾さん  
の商品なら間違いのないだろうと  
いう信頼が大きな財産です。  
「たしかな品にまごころこめて」  
というキャッチフレーズを店の  
入口に掲げていますが、このこ  
とが重要なことではないかと思  
っております。

三つ目は、よって私たち社員  
の幸福と会社の繁栄があるとい  
うこと。これはあたりまえのこ  
とです。以上が我が社の歴史の  
流れから代々伝わる経営理念と  
いうべきものです。

●遠国渡世の身分は、身持ち  
また格別正しくあるべき  
矢尾の四代目が「遠国渡世の  
身分は、他の商人衆と違い、身  
持ちまた格別正しくあるべきは  
ずのことなり」と書き残してい  
ます。

近江の国から秩父へ行つてい  
るから、遠い国というわけです。  
他国で商売をさせていただいて  
いるのだから、その土地の商人  
衆とは違う。それだけによい  
気配りをして、身持ちまた格別  
に正しくということをし、ここ  
で強調しているのです。

今日はこの会場に当社のOB  
の方が何人かいらつしゃいま  
す。そのみなさんが勤務されて  
いた昭和三十年代終わりぐらい  
まで、他国渡世の身分という気  
持ちがある意味では続いていま  
した。地元での女性問題や金銭  
問題を起したら即刻クビで  
す。したがって、地元非常に  
気を遣って商売をしてきまし  
た。

地元の橋を架けるときだ  
と、お祭りがあるとかの時には、  
できるだけのことはご奉仕させ  
ていただくことは、いまだに続  
いています。この根底には、地  
元のみなさんのおかげで私ども  
は商売をさせていただいてい  
る。そのおかげでそれなりのご  
協力ができる、できるのは、地  
元のみなさんのおかげですとい



矢尾百貨店OBの方々

「三方よし」から広がる健康なまちづくり

「三方よし」で広がる健康なまちづくりシンポジウムには、矢尾氏のほかに東京からは田中武夫氏、京都からは塚本喜左衛門氏が参加。ご自身の健康管理やまちづくりへの提言をいただきました。なお当日は東近江地域振興局内各地からの健康な食生活に関する様々な事例発表などが同時に行われました。

私の健康管理

〈田中武夫氏〉「人」という字は、お互いが支え合っています。「何で田中さんはそんなに人のために一生懸命になるの」と言われますが、人のためにも思っています。街活動などを行っているのではありませぬ。「人」の「為」と書く「偽」になります。そうあつてはいけません。自分自身のためなのです。朝は五時に起床して水をかぶり、商店街を清掃します。商店街が元気になること、これが私の健康法です。

〈塚本喜左衛門氏〉家訓に「儉約と早起き」があるものですから、生活習慣として毎朝四時半に起床し、六時半には出社しています。先祖がよい生活習慣を身につけてくれたので、ストレスに感じませぬ。仕事でも生活でもストレスを持たないので健康な状態を保つていけるのだと考えます。そして日常生活の中で健康状態を記録し確認するという積み重ねも健康管理において必要なことです。



健康づくりポスター展

〈矢尾直秀氏〉お客さまの為のエレベーターは使わないといった程度の健康管理しかしていないのですが、近江商人の食生活はかなり健康的であったと考えます。規則正しく、合理的な日常生活そのものが健康管理に大きく寄与していたのでしよう。今、食品を扱っており、当然のことですが、食品はとりわけ間違つた表示がないか非常に神経を使っています。「たしかな品をまごころこめて」という言葉どおりでいることに細心の注意を払っています。



う発想があるのです。こうしたご協力ができなくなったら我が社はおしまいです。したがって今、何かの形でご奉仕できるというところに喜びを感じています。

### 秩父矢尾商店での生活模様

昭和三十年ごろまで全員が住み込みの生活です。近江の方を奥さんにして、単身赴任で、年に何回か国に帰って近江の家を守りながら、秩父で商いに精を出していたのです。男ばかりの生活の中で、食事をつくる者はパンナベといわれる食事の当番があり、新人社員の担当でした。朝早起きをして、何十分かの食事をするので大変です。

食事は箱膳を使い、各自の箱膳には、茶碗を整理し、ご実家から送ってきたちりめんじやこなどを蓄えていました。この食事のスタイルは永年続いたのですが、保健所からの指導で不衛生だといわれ三十年ぐらい前に廃止しました。平素は質素な食事でしたが、秩父神社に市の日だった十六日やえびす溝、お祭りにはすき焼きなどが食べ放題の大盤振る舞いみたいなことがありました。近江商人独特の立ち祝い、着祝いという行事が売場の者が中心で行われ、この日もご馳走ができました。

関西弁を使っではいまいましたが、生活習慣などはすっかり関東風の習慣が身に付き、地元の方との融合はうまくいっていません。住み込みの習慣は、私の年代、昭和十年生まれが最後で、最後の者もう滋賀に帰っています。

### 地域への気配りが二百六十年の歴史を築く

矢尾百貨店では、「たしかな品にまごころこめて」をスローガンにしていますので、特に食品など間違ったものは売らないというのはごく当たり前のことなのです。

五個荘の中村治兵衛家の家訓が三方よしの原典といわれますが、中村さんだけではなく、私どもも含め全ての近江商人は、近江から遠く離れたそれぞれの

土地で商売していくためには、どうしてもその地域に受け入れられなくてはいけないという強烈な意識があつたのです。だから、地域にもものすごく気配りをしていたと思います。

もちろん奉仕のようなこともあります。普段の生活でも非常に地元の人への気配り、目配り、心配りというものを重要視していたのが近江商人であるのです。

とりわけ地方ではこうした考えが顕著です。東京や京都では都市のスケールが大きいのので、地元への気配りが少なかったのではないのでしょうか。地方では、絶対的に、自らができる範囲のことはすべてやらせていただく発想があり、このような気持ちの連続が二百六十年の歴史をつくったと思います。



**草の乱**  
KUSANORAN

120年前の日本に  
凄いやつらがいた!

2005年1月23日(日)  
大津市生涯学習センターで上映  
上映時間 ①10:30 ②13:30 ③16:30  
上映協力券 一般1,300円(当日1,499円)  
シニア1,000円

## ● 地域貢献企業として日本ファイランソロピー協会が表彰 豊郷町油藤商事株式会社 地域エコロジー賞を受賞

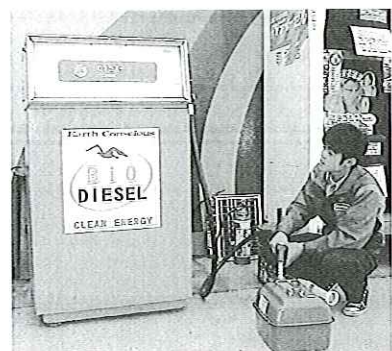
### 社会環境を改善する地域のエコロジーステーション

ガソリンスタンドを、家庭から

評価されました。

らの生活廃棄物回収・再資源化を通して社会環境の改善に貢献するエコロジーステーションに転換するというユニークな発想が、地域の拠点としての機能につながっている、という評価を受け、豊郷町の油藤商事株式会社(あぶら油)が第二回ファイランソロピー大賞の地域エコロジー賞を受賞されました。廃食油を回収し、石鹸やバイオディーゼル燃料に再資源化する試みは、低公害・地球温暖化防止という環境問題に真摯に取り組む姿勢として、自治体や同業者からの関心も高く、県内で廃食油を回収するスタンドが増えるなどの波及性も

油藤商事の展開はすでに多くの媒体で報道されていますが、まさに三方よしの実践として注目されています。ガソリンスタンドが大型化多様化している昨今ですが、このような環境主体、地域の人への気配り優先の実践は嬉しい限りです。ほかに、平成十年に通産省資源エネルギー庁長官賞、平成十三年にグリーン購入ネットワーク、第四回グリーン購入大賞(中小事業者部門)大賞などを受賞しています。今後ますます進化するガソリンスタンドに注目したいものです。



お問い合わせ先  
油藤商事株式会社  
〒五二九-1173  
滋賀県大上郡豊郷町高野瀬645  
☎0749-1351108  
URL <http://www.aburadou.co.jp/>

※企業ファイランソロピー大賞  
本業を通じて社会正義や社会(地域)再生のために一石を投じた企業を顕彰する平成十五年に創設の社会性、②先進性、③波及性の観点から審査される。第一回企業ファイランソロピー大賞のコミュニティ・ファイランソロピー賞は、健康なまちづくりシンポジウムに参加された田中武夫氏が受賞している。



# 三方よし理念講座開催のご案内

## 無我の境地で真理を悟ろう — 永源寺で座禅と講演 —

本年度は信仰の心とビジネスをテーマに理念講座を開催しています。前回の武覚超氏のお話について、大本山・永源寺で座禅を組み、寺内特製のお食事をいただき、禅の教えを学ぶ企画を計画しました。寒い時季ですが、多数のご参加をお待ちしています。

「起きて半畳、寝て一畳」これが禅の教えだそうです。清らかな大自然と清らかなお寺での理念講座です。ご期待ください。

とき 平成17年1月22日(土) 10時～16時解散  
 ところ 永源寺町大本山永源寺  
 集合場所 9:30にJR近江八幡駅(バスにて永源寺に移動します)  
 参加費用 3,000円  
 講師 永源寺教学部長 横山玄秀氏

大本山永源寺で座禅を組み講演を聞いた後、寺内特製のお食事をいただきます。その後木地師資料館や惟喬親王陵を見学します。

募集定員 50名(申込締切りは17年1月20日)

主催/NPO法人三方よし研究所 後援/永源寺町・滋賀県

### 予告

とき:2月26日(土)13時～16時 ところ:長浜市 旧開知小学校3階  
**まちづくりに生きる天香さんの思想**  
 — 黒壁を中心としたまちづくりへのエネルギーの根底を探る —

講師 吉田一郎氏(長浜市助役)

### ■お問合せ・お申込みは

〒522-0004

滋賀県彦根市鳥居本町658 NPO三方よし研究所事務局

電話 0749 (22) 0627 FAX 0749 (23) 7720

## 三方よし研究所の新刊のご案内

「近江旅の本」シリーズ第一弾

## 近江の商人屋敷と旧街道

発売中

NPO法人三方よし研究所編

近江八幡、五個荘、高島、日野、豊郷…。旧街道沿いなどに残る商人屋敷を訪ね、そこから果立った代表的な近江商人の業績とあわせて案内する。旅情を誘うカラー写真を多数掲載し、観光ガイドを充実させた決定版。

※「近江商人のふるさとを歩く」を改題・加筆・改題



A5判128頁 定価1890円(本体1800円)

末永國紀 著

### 『近江商人学入門—CSRの源流「三方よし」—』

B6判212頁 定価1260円(本体1200円)  
 発行所 サンライズ出版 TEL0749-22-0627  
 オンラインショップ <http://www.biwacity.com>

全国の書店にて発売中

近江商人が到達した経営理念「三方よし」は日本生え抜きのCSRであり、良き企業市民を目指す現代企業にとって示唆するところが大であると説かれています。

## てんびん棒

昨年年初、税理士の先生から送信されてきたミニ情報紙に「今年のキーワードはCSR」と記載されていました。先年来越々つづく経済事件はその後も少なくなるどころか驚かされる一方の状況です。とりわけ近江出身者が創設した大手企業の一連の自己中心的な事件の発覚は誠に残念な限りです。矢尾直秀氏のお話では、CSRは当然のことと断言されています。まさに近江商人の商いの原典こそが本当の商いの心であることを再確認すると同時に、意を強くした次第です。三方よし理念講座では「ビジネスと信仰」をテーマに開催しています。利益を求めることは商人の本分には違いないのですが、それ以前に人間の本質に迫ってみたいと考えています。本年もよろしくご支援お願い申し上げます。

★本紙は滋賀県商工労働部中小企業振興課よりの補助金を受けて発行しています。